

伝統は、 たちどまらない。

愛知淑徳学園理事長・学園長

小林素文



水泳部(大正12年) 中央 小林清作先生

2005年、愛知淑徳学園創立百年の時のキャッチコピーは『伝統は、たちどまらない。』でした。「女子教育は家事と裁縫で充分」とされた明治の時代に、学園創立者 小林清作先生が、英語と理科を必須科目とするなど『10年先20年先に役立つ人造り』を掲げた進取の気象を表現したものです。

百周年から十年。中学校・高等学校は、校舎を一新し、中高一貫教育体制となりました。大学は、大規模な学部再編により、交流文化学部、人間情報学部、メディアプロデュース学部が新設されました。さらに、地域社会との繋がりを深めるべく「愛知淑徳大学クリニック」が開院されました。

本年は、学園創立110周年です。『伝統は、たちどまらない。』基本精神を忘れることなく、思いを新たに「在るべき姿」を模索し、地域社会の信頼と期待に応えていきたいと存じます。

*

昨年8月、愛知淑徳中学校水泳部が全国大会3連覇を成し遂げました。相撲の世界では、大関で2連覇をすれば横綱となり、横綱で3連覇をすれば、名横綱・大横綱と称賛されます。それほど、連覇は偉業であり、3連覇となればなおさらです。真に快挙と言えます。

明治38年、愛知淑徳が創立された当時、女学生は色白でしつやかな「深窓の佳人」が理想とされていましたが、「これからの美人は顔に壮健の色が漲り、均齊に発達をした肢体を有するものでなければならぬ」と創立者は『美人観の革命』を唱え、体育を奨励しました。それで、テニス、陸上、水泳など、全国大会優勝を重ね、文武両道の伝統が築かれていったのです。

中高一貫となり、進学校としての評価が高まる今日であるからこそ、文武両道の伝統精神を受け継ぐ本校中学水泳部は学園の誇りです。

代と共に変わるべきは変わることであるとともに、伝統を変えることなく継承していくことであり続けたいと存じます。

*

『松樹千年翠(しょうじゅせんねんのみどり)』という禅語があります。「松の木が千年の長い年月を経ても風雪に耐え抜いて少しもその色を変えない」という意であり、松は変わらない象徴となっています。が、「千年の松も、春には新しい芽がふき、古い葉は枯らしていること、風雪によりその樹形を少しずつ変えていること」その積み重ねで、千年の翠(みどり)を保っているのです。

日々の営みを、工夫を加えつつ着実にこなしていくという、地味で堅実な繰返しもまた、『伝統は、たちどまらない。』本学園の基本精神の一つです。

『松樹千年翠』であるべく、不断の努力を重ねていきたいと存じます。